

◆AI（人工知能）を包含する Embedded Knowledge（埋め込み知）

と言う視点

第 11 回 RPA、AI とソサイエティ 5.0 と埋め込み知

（本学会副理事長 山崎秀夫）

最近の AI の進歩には著しいものがある。例えば英国の料理ロボットは約 2000 種類の調理を行う。また物流業界では様々な商品のピッキングなどにロボットが使われ始めている。金融業界では RPA と呼ばれるソフトウェアロボットの導入が花盛りである。

これらに共通しているのは人の作業を動画でキャプチャーし、自動的にソフトウェアを生成するモーションキャプチャー技術の発達にある。創作料理ではコックの調理をキャプチャーして機械に埋め込んでいると言った見方をすることができる。

こうして国内の工場や物流業界、金融などの事務作業現場でも人の作業をキャプチャーし機械の埋め込み知に転換する動きが広がってきた。

そもそもロボット化前の機械も様々な知識の塊である。これも一種の埋め込み知である。それが AI（人工知能）時代を迎えて、更に埋め込み知の塊としての要素を強め始めている。

車の自動運転の場合には、ハンドル作業は明らかに埋め込み知により対処される。但し、さらにライダーなど 30-40 個のセンサーからデータを収集する必要がある。

日本政府はソサイエティ 5.0 で超スマート社会を提唱し、それをデータ駆動型社会が支えるとして、キャッシュレスや情報銀行、MaaS（新たな公共交通システム）などを推進している。そうなればソサイエティ 5.0＝スマート社会の連鎖を支える社会インフラは埋め込み知の塊と言うことになるだろう。